

林修の特別授業

おなじみの林修先生が、今気になるテーマをわかりやすく解説。
「協同組合」第7回の今回は、農業協同組合(JA)が行っている、農業の「成長産業化」に向けた取り組みです。

【今日のテーマ】
協同組合
第7回

新しい農の形を創る

時代の変化をとらえ、農業を発展し続ける産業に

農業の成長産業化のために、資金・情報・ノウハウを提供しています。

林 きょうは、JAが取り組んでいる農業の新しい発展の形について見ていきましょう。農家の人たちが仕事に使う農機具を買ったり、施設を作ったりするにはお金が必要ですね。そうした資金が必要な人に、JAが組合員、利用者から預かった貯金を融資する事業を「信用事業」と言いました。

上川 はい、覚えています。JAは、組合員の仕事と暮らしをお金の面でもサポートしているんですね。

林 そうです。現在、日本で農業に関連した融資の総額は約4.2兆円(2017年3月時点)。そのうち約6割をJAバンクが担っています。農家個々の実情に合わせてきめ細かな支援はもちろん、近ごろは農業に関わる企業を対象とした大規模な融資も増えています。

上川 もっと大きな力を合わせて、みんなで成長していこうということですか。

林 そうです。より大きな視野で農業と地域の発展に貢献しようということです。

上川 でも、お金さえ借りられれば新しい取り組みがすぐにうまくいくわけでもないですね。

特色ある新しい農業法人に出資し、産業を育て、地域発展に貢献していきます。

林 その通り。大切なことは、「事業の成長・拡大の段階に合わせた適切な支援」です。右の表を見てください。例えば技術力が高いものの、設立から日が浅く資金面でもまだ弱い農業法人に対しては、「事業を安定軌道に乗せる」ことが最大のミッションです。この場合、財務を安定させるための出資や、加工業者、流通業者などとの協力体制の整備をまず急ぐ必要があります。事業が安定し、拡大期に入れば必要な支援の形はまた違ってきます。

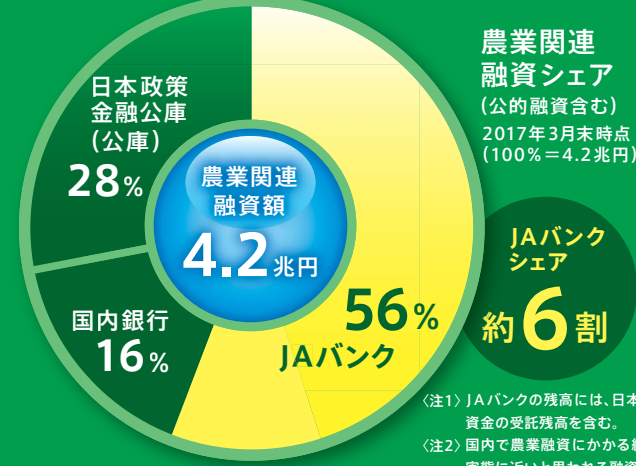
上川 たとえば、倉庫や加工場を大きくしたり、配送の車を増やしたり……。

林 そうです。事業の拡大は、新たな雇用や地域の活性化にもつながっていきます。まさに、JAが続けてきた「地域密着」の取り組みモデルといえるでしょう。

上川 農家以外の人たちも含めて、地域全体が元気になるのはいいことですね。

林 そう思います。近ごろ言われる「農業の成長産業化」というのは、みんなのお金や蓄積された知見、技術力などを総動員して、新しい産業の形を創ろうということです。協同組合の「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の考え方が、これからの日本の発展につながると思います。

JAバンクは農業関連融資全体の約6割を占める国内最大の貸し手



日本の農業GDPと農業関連融資額の比較

融資残高(2016年3月末)	0.7%	名目GDP(2015年)	0.9%
農業関連	4.3兆円	農業関連	4.7兆円
全産業	587兆円	全産業	531兆円

農業関連融資総額(4.3兆円)は国内総融資額の約0.7%にあたり、これはGDP(国内総生産)に占める農業の割合とほぼ同水準。日本の農業関連融資総額は産業規模に見合った水準にあるといえます。

成長段階に合わせたファイナンスで担い手をサポート

担い手の成長・発展ステージ	新規就農(多様な担い手)	就農後(中核的担い手)	法人化・事業拡大(担い手経営体)	事業発展(大規模発展等)
代表的な商品	アグリシードファンド	アグリシードローン	担い手経営体応援ファンド	
対象	法人化したばかりの農業法人	地域の担い手を目指す農業法人	更なる規模拡大を目指す農業法人	
目的	技術力はあるが資本不足の農業法人に対し、財務を安定させるための出費	運転資金を、原則無担保・無保証で融資	土地や農機具調達を支援するための、大型出費	

成長段階に合わせた出資の事例(アグリシードファンド) 熊本県「宮川洋蘭」



「今」にあったやり方で、地域を守り発展させていこうとしています。

みんなの力を合わせて、新しい農の形が作られていきそうです。

今日のまとめ 培った「みんなの力」を生かして、新たな農業を創り、育てていく。それが、協同組合。

BS朝日 今日放送

「林先生が世の中のギモンを徹底解説 よくわかる! なっとく授業」

「協同組合」って何? 助け合ってどんなこと? 林先生の解説に注目!

今日 1時

プレゼントキャンペーン実施中!

(クイズ正解者の中から抽選で85名様に、JAグループ厳選の商品をプレゼント)

応募締切 3月13日(火)17時まで



東進ハイスクール 講師
林修先生

はやし・おさむ/東京大学法学部卒業。東進のTVコマercialのセリフ「今でしょ!」が2013年新語・流行語大賞に。受験生から絶大な信頼を得る傍ら、多数のTVレギュラーを抱え多忙な日々を送る。

モデル
上川あいりさん

かみかわ・あいり/1999年生まれ、中学3年生の時にスカウトされる。現在は現役高校生モデルとして活動し、朝日新聞大学入試キャンペーンイメージキャラクターを務める。

